

被災 67 年 2021 年 3・1 ビキニデーアピール

1954 年 3 月 1 日、アメリカがマーシャル諸島ビキニ環礁でおこなった水爆実験による被災から 67 年、今年のビキニデー集会は、新型コロナウイルスの感染拡大により、オンライン集会として開かれています。その中で、私たちは、人類で初めて水爆実験の犠牲となった久保山愛吉さんの「原水爆の被害者は私を最後にしてほしい」との言葉を胸に、核兵器全面禁止への決意を新たにしています。

ビキニ水爆の威力は、広島原爆の 1000 倍（約 15 メガトン）に相当し、その「死の灰」はマーシャル諸島や同海域で操業していた日本漁船に降りそそいただけでなく、気流や海流によって太平洋からインド洋まで汚染し、甚大な被害を引き起こしました。広島・長崎に続いて三度核兵器による被害を体験した日本国民は、草の根から原水爆禁止の署名運動に立ち上がり、核兵器廃絶の世論を発展させてきました。

ビキニ被災から 67 年、国際政治の流れは核兵器廃絶へと大きく前進しています。2016 年から開始された「ヒバクシャ国際署名」は世界に広がり、2017 年 7 月 7 日核兵器禁止条約が 122 カ国の賛成で成立、批准国が 50 カ国に到達し、2021 年 1 月 22 日、核兵器禁止条約がついに発効しました。「核兵器のない世界へ—終わりの始まり」新しいステージが始まったのです。

アメリカなど核大国は、禁止条約を支持する多数のなかで孤立し、米中、米中など経済や外交でそれぞれに対立や矛盾はあっても、核独占体制を維持するために「結束」して抵抗しました。

しかし、「ヒバクシャ国際署名」など押しとどめることができない草の根の運動が、そうした大国の横暴を打ち破ったのです。その力は、地球温暖化をめぐる課題でも顕著となっています。今、若者の発信力で、核問題だけでなく、環境問題、人権問題などを加えた国際世論の高まりは、かつてない動きになっています。

その中で、日本政府が、アメリカの核政策に追随し、核兵器禁止条約に背を向けていることは世界唯一の被爆国にあるまじきことです。日本政府に、アメリカの「核の傘」から抜け出し、率先して、核兵器禁止条約に署名、批准することを求めます。新たな署名運動も始まりました。今こそ、非核、平和の国民世論をひろげ、連帯と共同を豊かに発展させましょう。

被災 67 年 2021 年 3・1 ビキニデーを出発点に、全国の草の根から行動に踏み出しましょう。

- ◇ 日本政府に核兵器禁止条約の支持、署名と批准を求める運動をひろげましょう。
 - ◇ 日本政府にビキニ被災の全容調査と被災者救援、補償を求めましょう。
 - ◇ 軍事費よりもコロナ対策に予算を、国際社会の連帯と共同を前進させましょう。
 - ◇ 地球温暖化、ジェンダー平等など環境問題、人権問題の運動とも連帯しましょう。
 - ◇ 原発再稼働に反対し、原発からの脱却と自然エネルギーへの転換を求めましょう。
 - ◇ 被爆者の証言活動、原爆写真展を全国各地で開催し、被爆の実相を広めましょう。
 - ◇ 戦争放棄の憲法 9 条を活かし、守りましょう。
 - ◇ 核兵器廃絶の願いで結ぶ平和行進をすべての自治体につなぎましょう。
- ノーモア・ヒロシマ、ノーモア・ナガサキ、ノーモア・ビキニ、ノーモア・フクシマ
ノーモア・ヒバクシャ、ノーモア・ウォー